

日比谷公園グランドデザイン
～ 5 つの提言 ～

平成 30 年 12 月

日比谷公園グランドデザイン検討委員会

目 次

序 章 日比谷公園グランドデザインのねらい

1 背景	1 頁
(1) 公園の多面的活用の推進	
(2) 日比谷公園周辺におけるまちづくりの動向	
(3) 日比谷公園の歴史	
2 目的	2 頁
3 検討の視点とねらい	2 頁
4 日比谷公園グランドデザインの 5 つの提言	2 頁

第 1 章 日比谷公園の歴史と特性

1 日比谷公園の歴史	3 頁
(1) 日比谷公園の成り立ちと施設の変遷	
(2) 日比谷公園の位置付け	
2 日比谷公園の特性	6 頁
(1) 利用特性	
ア 静けさと賑わいが共存する利用空間	
(2) 歴史的・文化的特性	
ア 歴史を感じる施設	
イ ランドスケープを象徴する空間	
(3) 立地特性	
ア 緑と水が集積する日本の顔	
イ 文化・交流・迎賓機能が集積するまち	

第 2 章 日比谷公園の将来像

1 検討の方向性	11 頁
2 日比谷公園の将来像	12 頁
3 区域別の将来像	21 頁

第 3 章 将来像の実現に向けて

25 頁

添付資料 1 日比谷公園グランドデザイン検討委員会名簿

27 頁

序章　日比谷公園グランドデザインのねらい

1　背景

(1) 公園の多面的活用の推進

少子高齢化や価値観の多様化、世界的な都市間競争の激化、民間による公共的な活動の活発化といった社会状況の変化に伴う諸課題に対応しつつ、東京をより魅力的にしていくためには、都立公園の魅力や価値を向上させ、公園が潜在的に有する多様な機能を、都民、旅行者等の様々なニーズに対応して最大限に発揮させることでストック効果(※1)を高める取組を更に進めていく事が求められている(※2)。国においても、公園等の緑とオープンスペースの政策は、そのポテンシャルを都市、地域、市民のために最大限引き出すことを重視する新たなステージに移行すべきとしている(※3)。

(2) 日比谷公園周辺におけるまちづくりの動向

日比谷公園周辺には、文化、交流、迎賓機能が集積する日比谷地区をはじめとし、霞が関、大手町・丸の内・有楽町、新橋・虎ノ門、銀座等、様々な性格を持ったまちがある。

また、各地区において国際競争力を向上させる施設の更新や、公共空間の活用を促進する取組も進んでいる。

直近では、日比谷公園に隣接して、国際ビジネスと芸術文化・エンターテイメントの複合施設が竣工し、日比谷公園を含むエリア全体に注目が集まり、周辺では開発の機運が更に高まってきている。

(3) 日比谷公園の歴史

日比谷公園は、都市計画の前身となる市区改正設計において位置づけられ、日本初の近代的洋風公園として明治36年(1903)に開園した。その後、開園当時の設計思想を継承しつつ時代と共に変わる周辺地域や社会状況に併せて機能の充実を重ねてきた。現在も、皇居周辺のオープンスペースと共に中央公園として都市計画に位置づけられ、周辺の緑と連続した豊かな自然環境と園内の文化施設とが一体となり、日本の顔となる賑わいの場や文化交流拠点として活用されている。

※1 整備された社会資本が機能を発揮することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果のこと。防災力の向上や、生活の質の向上をもたらす効果、生産拡大効果がある。(都市公園のストック効果向上に向けた手引き 国土交通省(平成28年5月))

※2 都立公園の多面的な活用の推進方策について:H29.5 東京都公園審議会

※3 新たなステージに向けた緑とオープンスペースの政策の展開について:H28.5 新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会

2 目的

上記の背景から、日比谷公園は、歴史的価値等の公園のポテンシャルを最大限に活かし、東京の魅力向上のため、周辺のまちづくりとも連携しながら、東京の顔となる中央公園（セントラルパーク）として多様な利用者のニーズに対応していく必要がある。

そのためには、行政等の公園管理者や民間の施設管理者だけでなく、都民や利用者、公園に隣接する周辺のまちと公園の将来像を共有し、公園の魅力向上に取り組んでいくことが重要である。

そこで、日比谷公園グランドデザインでは、日比谷公園の将来像を利用者の視点から明らかにするとともに、将来像を実現するための主な取組を示すこととした。

3 検討の視点とねらい

多様な人々が利用する公園の魅力を向上させていくためには、公園が提供するサービスを利用者目線で総合的に点検、評価し、必要な改善とサービスの品質向上を図っていくことが重要である。このため、日比谷公園グランドデザインの検討に当たっては、多様な利用者の視点から点検を行うため、車椅子体験や障害を持った方も交えた実態調査を実施し、日比谷公園の現状や特性を整理した。また、平成29年5月の東京都公園審議会答申「都立公園の多面的な活用の推進方策について」が示す、①公園の緑とオープンスペースの重要な機能の確保・向上、②公園の個性・特性を発揮、③まちのなかの心地よい場の創出、④官民の連携・協働という多面的活用の4つの側面からの検討も加えた。

日比谷公園グランドデザインでは、これらの検討を踏まえ、日比谷公園開園130周年を迎える2033年までの長期的な視点に立って日比谷公園の将来像を提言する。

4 日比谷公園グランドデザインの5つの提言

今回、本検討委員会では日比谷公園の将来像を、以下に示す5つの提言としてまとめた。

- I 誰もが迎え入れられ、心地よく過ごせる上質な公園
- II まちと連携し、相乗的に新たな魅力を生み出す公園
- III 歴史的、文化的価値を顕在化させた特別な公園
- IV 緑とオープンスペースのネットワーク形成の核となる公園
- V 多様な主体と連携し、利用者の視点で運営する公園

第1章 日比谷公園の歴史と特性

1 日比谷公園の歴史

(1) 日比谷公園の成り立ちと施設の変遷

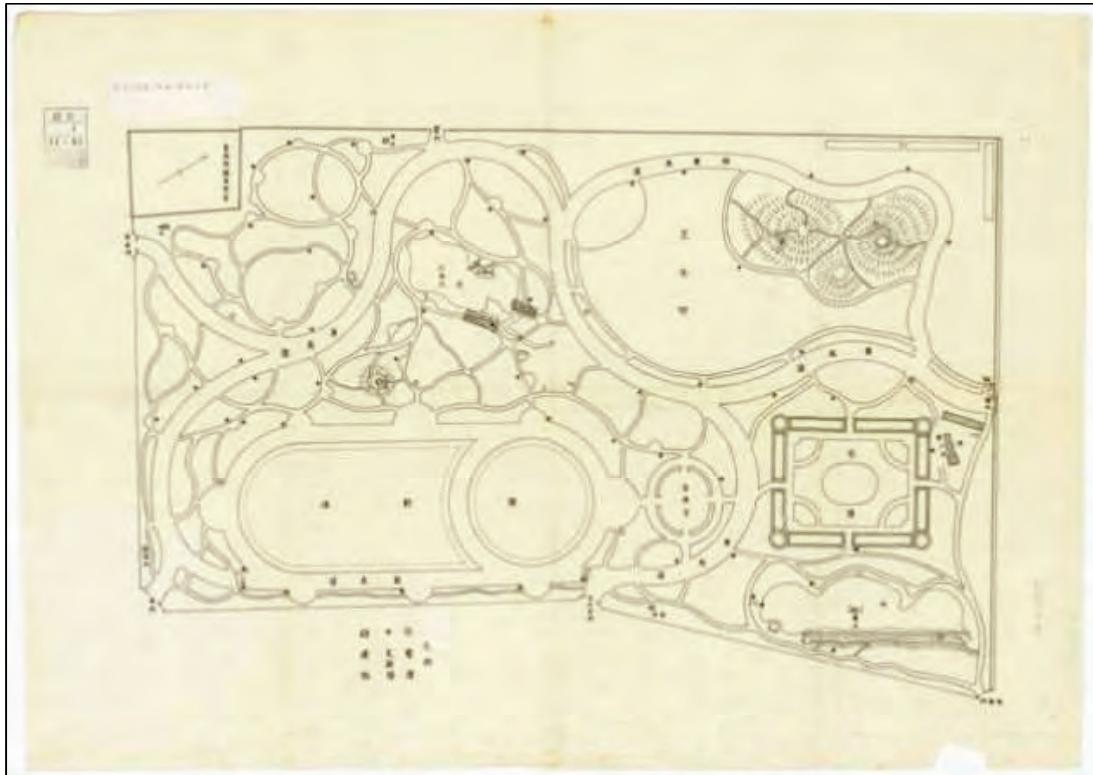
明治 20 年代から 40 年代は、新たな都市問題に対して公園の役割が認識された年代である。都市における工場の増加、労働人口の集中、交通運輸の整備、生産性の向上による住民福祉の充実等々の要因を踏まえ、公園の近代化が都市自体の課題ともされていた。

このように、都市空間における環境装置として公園の必要性に対する認識が高まる明治中期において、その先駆けとして実現した公園が日比谷公園である。

公園の設計は、ドイツの公園を範としている部分に、従来の日本庭園の手法も加えられ総合的近代公園の様式がとられている。わが国初の大規模な近代的洋風公園であり、開園以来 115 年が経過し、震災や戦災、戦後の成長期と大きな節目を経て現在に至っているが、現在もその設計思想が園路の線形や地割に残され、その地割の中での改変が行われてきた。

明治 22 年(1889)	市区改正設計に日比谷公園が位置づけられる 第一日比谷公園(54,464 坪)	
明治 36 年(1903)	開園(6/1) 300 坪の児童遊園設置 民間の洋風喫茶店等を公園施設として設置を許可	→初めての「洋花」 →初めての「洋食」
明治 38 年(1905)	音楽堂(現小音楽堂)落成 日比谷焼打事件	→初めての「洋楽」
明治 41 年(1908)	東京市立日比谷図書館開館	
明治 42 年(1909)	伊藤博文公爵国葬会場となる	→国家広場的空间
明治 43 年(1910)	日比谷公園事務所完成(ドイツ・バンガロー風)	
大正 11 年(1922)	大隈重信侯爵国葬会場となる 専任児童指導員を初めて配置	→国家広場的空间 →児童教育の先駆け
大正 12 年(1923)	本格的な野外音楽堂(現大音楽堂)落成 →政治集会や歴史的な野外コンサート等 関東大震災により 5 万人が公園に避難、運動場部分に 100 棟の仮設住宅設置 →震災への対応	
昭和 4 年(1929)	日比谷公会堂落成	→政治集会や歴史的なコンサート等
昭和 35 年(1960)	地下駐車場整備により運動場が沈床芝生広場と大噴水に改変	

◇開園時の図面 明治 36 年 (1903)



◇洋花



第一花壇（明治期）

◇洋食



松本樓のスケッチ（明治期）

◇洋楽



初代音楽堂の絵葉書(年代不明)

(2) 日比谷公園の位置付け

名 称：東京市区改正設計第一 日比谷公園（明治 22 年 5 月 20 日）

東京都市計画公園第 1 号中央公園（当初 昭和 32 年 12 月 21 日）

（最終 昭和 39 年 12 月 16 日）

位 置：千代田区三番町、北の丸公園、皇居外苑、日比谷公園、九段南二丁目、
一番町及び麹町一丁目各地内

規 模：155.92ha

詳 細（規模/開園日/管理者）

日比谷公園（16.16ha/明治 36 年/都）

千鳥ヶ淵公園（1.58ha/大正 8 年/千代田区）

皇居外苑（96.50ha/昭和 24 年/環境省）

千鳥ヶ淵戦没者墓苑（1.61ha/昭和 35 年/環境省）

九段坂公園（0.15ha/昭和 40 年/千代田区）

皇居東御苑（20.74ha/昭和 43 年/宮内庁）

北の丸公園（19.33ha/昭和 44 年/環境省）

（参考）東京都建設局 公園調書（平成 30 年 4 月 1 日現在）



2 日比谷公園の特性

(1) 利用特性

ア 静けさと賑わいが共存する利用空間

- ・都心にあって、110余年にわたって造り上げてきた静かで落ち着いた心地良い空間として親しまれている。
- ・平日はビジネス街の緑のオアシスとして多くの人が休息や散策等に利用しているが、子供の利用は少なく、障害者等の利用も限られている。
- ・図書館や大音楽堂（野外音楽堂）等の施設利用者や周辺に隣接している商業、文化、交流施設からの立ち寄りや通過利用が多い。
- ・公会堂は、これまで世界の著名な演奏家や交響楽団による演奏会や芸能発表会など文化発信拠点として大きな役割を果たすとともに、言論や教育分野の集会や行事も数多く行われてきた。
- ・大音楽堂（野外音楽堂）は長い歴史を通じて現在では伝説となっている様々なコンサートや時代を映す鏡となった様々な集会の舞台となった場所で、利用応募倍率は極めて高い。小音楽堂は、一般市民が初めて西洋音楽に触れた場所でわが国最初の公園の野外音楽堂である。
- ・イベントによる園地の占用が年間200日以上あり、大半は大噴水周辺のエリア（大噴水・小音楽堂・第二花壇）で行われる大規模なイベントとなっている。

【主な課題】

- ・樹木が大きく育ち都心の森となる一方で、鬱蒼として暗く、植栽が単調な個所が見られる。
- ・開園当初から民間による飲食施設を導入する等、先導的なスタイルを確立してきたが、施設によっては園地との一体感に乏しく公園の魅力を損ねる箇所も見られる。
- ・テニスコートの利用率は高いが、周辺施設との調和に欠ける。
- ・JRや地下鉄等の駅も近く利便性が高い立地条件にあるが、広幅員道路や、地下道からの階段等のバリアが存在するなど、まちと公園のアクセシビリティが良くない。
- ・公共地下駐車場があるが地上へのアクセスは階段で、公園との一体利用に乏しい。
- ・車椅子体験等の実態調査において段差が散見されるなど、全ての利用者に優しいバリアフリーの施設となっていない。
- ・日比谷公会堂は老朽化等の改善や機能向上の計画検討のため使用を停止している。
- ・大音楽堂（野外音楽堂）は、周辺施設に対する音の影響に配慮するため利用日や時



◇参考：平日お昼休みの風景



◇参考：イベント時の賑わい

間を制限している。

- ・様々なイベント等が行われているが、必ずしも公園の魅力を活かした活用ができるていない。

(2) 歴史的・文化的特性

江戸時代の遺構を取り込み、明治36年(1903)開園時の設計思想を継承して現在に至っており、歴史的・文化的資源を数多く有する歴史を記憶する公園である。

ア 歴史を感じる施設

- ・これまで「3つの洋」に代表されるような新たな文化を発信する機能を担い、多くの来園者を引き付けてきた公園である。
- ・日比谷見附跡の石垣や、江戸城の遺構を活用した心字池のほか、日比谷門等6箇所の門柱は枠形石垣の巨石を用いて造られるなど、江戸からの歴史を伝えている。
- ・アーク灯や馬の水飲み等は近代の都市整備を象徴する施設として公園のためにデザインされたものと考えられている。
- ・小音楽堂は設計当初から計画され、形を変えつつも同じ場所で機能を継承している。
- ・日比谷公会堂は市政会館と一体となったゴシック様式の建物で東京都選定歴史的建造物、旧日比谷公園事務所はドイツ・バンガロー風建築物の東京都指定有形文化財に指定されており、洋風公園の象徴的建物である。



◇門柱（日比谷門）



◇馬の水飲み



◇雲形池と鶴の噴水

イ ランドスケープを象徴する空間

- ・我が国初の近代的洋風公園で、S字型の大園路による4つの地割で特色のある空間が構成されており、時代や社会的な要請に対応して施設が拡充してきた。
- ・日比谷見附跡と心字池は和風、第一花壇は洋風、雲形池は和洋折衷の設えで、公園を象徴する



◇日比谷公会堂から小音楽堂へのヴィスタ

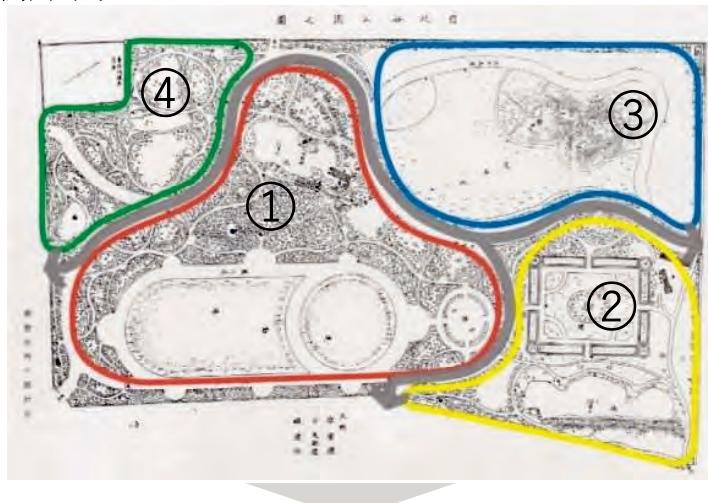
ランドスケープである。

- ・小音楽堂から大噴水、第二花壇、日比谷公会堂を結ぶ空間は、日比谷公園最大のオープンスペースである。そのヴィистラインを中心とするシンメトリーな空間は美しさと安定感があり、公園を象徴するランドスケープである。

【主な課題】

- ・歴史的、文化的に重要な施設やランドスケープ等、公園の有する価値に対する共通認識が公園管理者も含めて必ずしも形成されていない。
- ・歴史的、文化的に重要な施設が老朽化し、その価値に配慮した保全や更新が図られていない。
- ・公園利用者に歴史的、文化的価値を十分に伝えることができていない。
- ・これからの時代を牽引するような、新たな魅力に欠ける。

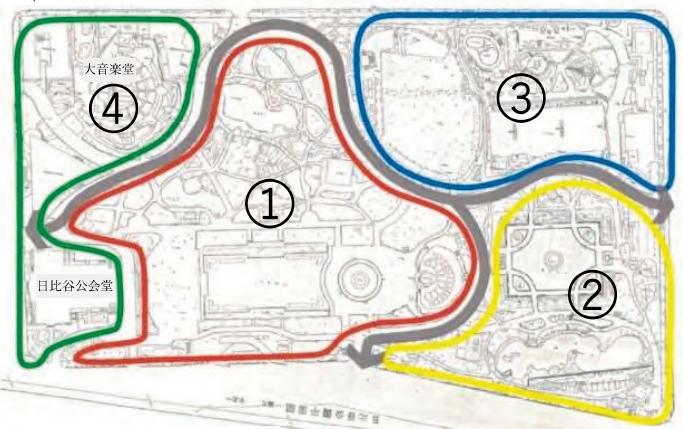
◇開園当時



施設の改変は、主に大規模建築物の設置に伴うもの

- ・ゾーン④(ドイツ風樹林地)への大音楽堂の設置
- ・日比谷公会堂の設置と園路の線形の改変
- ・ゾーン①では都市計画地下駐車場の設置に伴い運動場が沈床芝生地となり大噴水が設置
- ・ゾーン③(三笠山・草地等)では、時代に応じて健康運動施設が拡充される等の改変が生じた

◇現在



(3) 立地特性

ア 緑と水が集積する日本の顔

- ・日比谷公園から皇居につながる緑と水の空間は、世界の都市と比較しても誇るべき緑地空間であり、良好な都市環境を創出する都心の緑と水の核となっている。
- ・江戸城跡である皇居周辺にはこれまで継承してきた自然が残されており、日比谷公園が開園以来育んできた緑と水の空間と一体となって生き物のネットワークが形成されている。
- ・日比谷公園から皇居周辺の緑と水の空間は、日本の四季折々の自然の美しさを代表する景観を形成している。

■東京都の保護上重要な希少生物種の一例



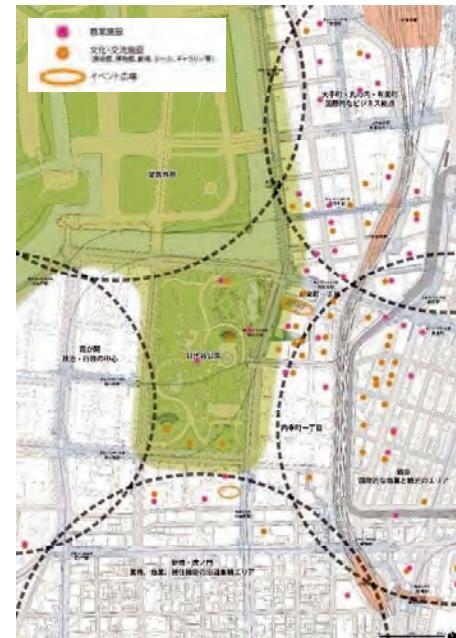
◇カワセミ（日比谷公園）



◇キケマン（日比谷公園）

イ 文化・交流・迎賓機能が集積するまち

- ・明治時代から帝国ホテルや鹿鳴館等が建設され、劇場やホール等の国際的な交流施設や娯楽施設が集積している。近代の歴史的建造物も多く、現在も保全、活用されている。
- ・日比谷公園周辺は、北側に皇居、国際的なビジネス拠点である大手町・丸の内・有楽町、東側は日本を代表する商業地である銀座、南側はビジネスの集積拠点である新橋・虎ノ門、そして西側は霞が関の官庁街となっており、これら性格の異なるまちの中心となっている。
- ・近年、公園周辺では都市の再編が活発化し、文化・交流、迎賓等の機能が拡充される動向にあり、国内外より多様な人々が訪れている。
- ・地域の価値を高めるエリアマネジメント活動が進められ、まちの活性化が進んでいる。



◇日比谷公園を取り囲む性格の異なるまち

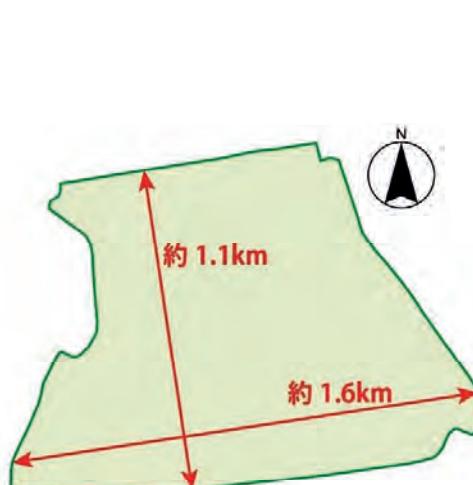
【主な課題】

- ・日比谷公園と隣接する皇居外苑等との回遊性を高めるような、整備や誘導が出来ていない。
- ・皇居を中心として緑が連携することによってエコロジカルなネットワークが形成されているが、緑のネットワークをまちに拡げていく連携が必ずしも十分でない。
- ・東京都心の緑の核となる皇居周辺エリアは、都市計画上一つの公園として計画されているが、性格の異なる園地をそれぞれの者が管理しており、互いに魅力を高めあうような取組が不十分である。
- ・周辺の施設を訪れる多様な来訪者等に対し、都心の緑豊かな公園ならではの魅力を発信できていない。
- ・周辺地域の施設やまちづくり団体によるエリアマネジメント活動と公園との連携が図られていない。

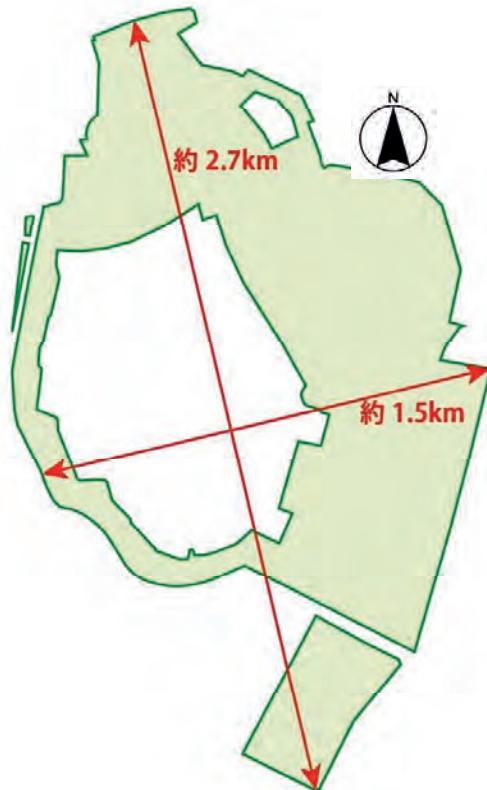
■世界の大規模公園と東京都市計画公園第1号中央公園の比較



◇参考：セントラルパーク/ニューヨーク 約 341ha



◇参考：ハイドパーク/ロンドン 約 142ha



◇日比谷公園を含む第1号中央公園 約 156ha

第2章 日比谷公園の将来像

1 検討の方向性

第1章では都民や利用者の視点から、日比谷公園の利用特性、歴史的・文化的特性、立地特性を整理し課題を抽出した。

日比谷公園は、高度な都市機能が集積し多様な人々が活動する日本と東京の活力を牽引する都心に立地し、公園の周辺では民間のまちづくりの動きも活発になっている。

また、皇居や皇居外苑等と共に東京都市計画公園第1号中央公園に位置付けられ、都心の緑の核として世界に誇るべき空間を形成している。

加えて、開園当初の設計思想を継承しながら、江戸から明治、大正を経て現在に至る東京の歴史が刻み込まれた公園である。そして、「3つの洋」など公園が発信した文化や、公園が舞台となった数々の出来事や体験と共に人々の記憶に留められている公園である。

今後東京の魅力をさらに向上させていく上で日比谷公園の役割は非常に大きく、そのポテンシャルを最大限に活かし、まちと連携しながら東京の魅力と活力を創出する、世界に誇れる中央公園を目指すことが重要である。

そのためには、日比谷公園を訪れた人々の想いを大切にし、日比谷公園が110余年にわたって紡いできた歴史的、文化的価値や、皇居に連携する緑の空間を更に磨き上げ、誰もが気軽に訪れ心地よく過ごせる、上質な空間を提供していかなければならぬ。

また、公園が周囲のまちに溶けこみ、まちと共に新たな魅力や賑わいを創出するとともに、公園が核となり、まちに緑が拡がり、緑のネットワークの形成を促進していくべきである。

そこで、本検討委員会では、日比谷公園の将来像について、5つの提言として以下に示す。

2 日比谷公園の将来像

提言 I 誰もが迎え入れられ、心地よく過ごせる上質な公園

- i 緑に包まれた潤いある心地良い空間を創出し、新たなライフスタイルを提案する。

【主な取組】

- ・広々とした芝生の広場やラウンジのような場所など多様な来園者が思い思いに心地良く過ごせるサードプレイスとなる空間を創出する。
- ・開園以来今日まで継承してきた静けさや賑わいの空間を活用し、多様な利用に対応する。
- ・誰もが安心、安全に利用できるよう、見通しが良く死角の無い明るく快適な都心の森をつくっていく。
- ・質の高いサービスの充実や施設の整備、改修等により、子供からお年寄りまで、利用者の様々なニーズに対応する。
- ・人と人、人と地域とのつながりや、多様な主体による公園の魅力づくりへの参画を促進する。

■心地よく過ごせるサードプレイスのイメージ



◇日比谷公園_日比谷見附跡



◇ニューヨーク_ワシントンスクエアパーク

■人と人、地域との繋がりを生み出す公園のイメージ



◇ニューヨーク_ブライアントパーク



◇上野恩賜公園_竹の台広場

ii バリアを無くし、誰もが利用しやすいインクルーシブな空間を創出する。

【主な取組】

- ・段差等のバリアを解消するとともに、施設整備に当たってはユニバーサルデザインに配慮する。
- ・利用者同士が気遣い、助け合う公園であることをうたう公園憲章を定める等、公園のあり方を先導的に発信する。
- ・誰もが簡単に必要な情報を入手できるよう、パンフレット、Web 等多様なツールを活用し、多言語で情報を発信するとともに Wi-Fi 環境を充実させる。

iii 安全、快適かつ自由に多様な人々が訪れることができるよう、公園と周辺のまちとのアクセシビリティを向上し、回遊性を確保する。

【主な取組】

- ・公園へのアクセシビリティを向上させ、憩い集える空間を創出するため、周辺のまちづくりと連携して、地下やデッキ等で公園とまちを繋ぐ。
- ・日比谷公園に近接する駅等の公共交通機関から公園までのバリアフリールートを拡充する。
- ・主要なターミナル等で日比谷公園へのアクセス情報の発信を検討する。
- ・障害を持つ利用者等が来園した場合の駐車スペースの確保など誰もが利用しやすい環境整備を検討する。

■公園とまちとの回遊性強化イメージ



◇シカゴ_ミレニアムパーク

提言II まちと連携し、相乗的に新たな魅力を生み出す公園

- i 公園とまちが相互に連携、連動し、芸術やエンターテインメントの多彩な魅力を先導的に打ち出す。

【主な取組】

- ・年間を通じて多様な利用に供し、魅力を発信する施設として、日比谷公会堂や大音楽堂などを改修する。
- ・公園と周辺地域が連携、連動して相互の特性を活かしながらイベント等を実施する。
- ・周辺に立地するホールや劇場、映画館等と連携し、地域の文化教育並びに交流環境を充実させる。

■周辺地域と連携したイベントイメージ



- ii 公園とまちを回遊しながら一体的に利用できるよう誘導する。

【主な取組】

- ・シェアサイクルポートの設置や、観光バスやツアー等のルートへの位置づけなどにより、地域を回遊できる手段を多様化する。
- ・周辺のまちと連携し、日比谷公園と地域の歴史的、文化的資源やイベント等の情報を一元的に発信して地域全体の魅力を向上させる。

■参考 公園及び周辺の歴史的・文化的資源の一例



◇歴史的建造物に指定されている日比谷公会堂



◇日比谷公園に隣接する皇居外苑の桔梗門

iii 周辺のまちを背景として、歴史を積み重ねた公園ならではの魅力的な景観を見せる。

【主な取組】

- ・公園が育んできた緑と水の空間と周辺の建築物との対比など魅力的な景観を楽しめるビューポイントを創出する。
- ・景観のポイントとなる施設をライトアップ等によって際立たせ、公園の魅力を向上させる。
- ・周辺のまちづくりに当たって、公園からの見え方を考慮した建築物の配置やデザイン等との調整を図り、公園の魅力的な景観を保全、創出する。
- ・周辺のまちを視点場として公園を俯瞰した際の景観に配慮した施設整備や植栽等の管理を実施する。

■参考 日比谷公園とまちとの
対比の例示



◇まちを背景とした心字池

■参考 ライトアップにより
施設の魅力を向上させる例示



◇東京駅のライトアップ

提言III 歴史的、文化的価値を顕在化させた特別な公園

i 開園当時の設計思想を継承し、特色のある園地やシークエンス(※4)を活かす。

【主な取組】

- ・歴史的、文化的価値を明らかにし、将来に継承する保存と管理の計画を策定する。
- ・園路からのシークエンスやビューポイントからの景観を考慮した空間を創出する。
- ・イベント等においてもヴィスタ景観を活かす等、日比谷公園ならではの空間利用を誘導する。



ii 歴史的、文化的価値のある公園施設を保全、修復し、活用するとともに、歴史を感じさせる緑を活かし、風格のある地域景観を形成する。

【主な取組】

- ・第一花壇、心字池と石垣、雲形池と周辺の樹林地など歴史的価値のある空間や施設を修復し、公園の顔として活用する。
- ・園内の石組みや石垣、門柱等、江戸城や大名屋敷の石材を活用した施設を貴重な歴史的資源として活用する。

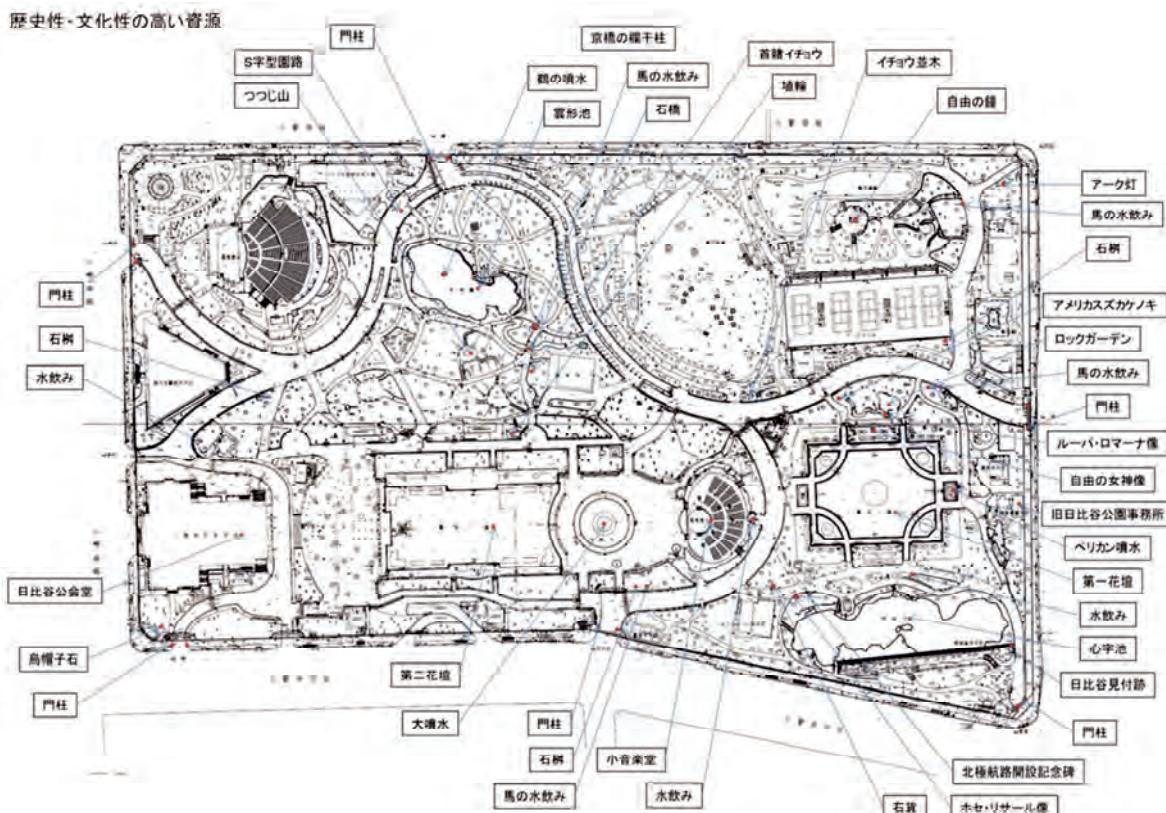
※4 園路を歩きながらなど視点の移動に伴って継時的に変化する景観を体験するもの
(景観形成ガイドライン「都市整備に関する事業」H23.6 国土交通省都市・地域整備局)

- ・都指定有形文化財の旧日比谷公園事務所や都選定歴史的建造物の日比谷公会堂等の歴史的価値を保全しつつ、多様な目的に活用する。
- ・公園や施設の歴史的、文化的価値を明らかにし、多様なツールで広く発信する。
- ・日比谷公会堂や日比谷見附跡等、景観上重要な施設や公園の歴史を象徴する樹木等を保全するとともに、それらの視認性が高まるよう植栽の管理等を実施する。
- ・これまで蓄積してきた多くの資料を所蔵する緑の図書館東京グリーンアーカイブスなどの一層の活用を図る。

■参考 景観上重要な施設の一例



◇江戸城の遺構である日比谷見附跡



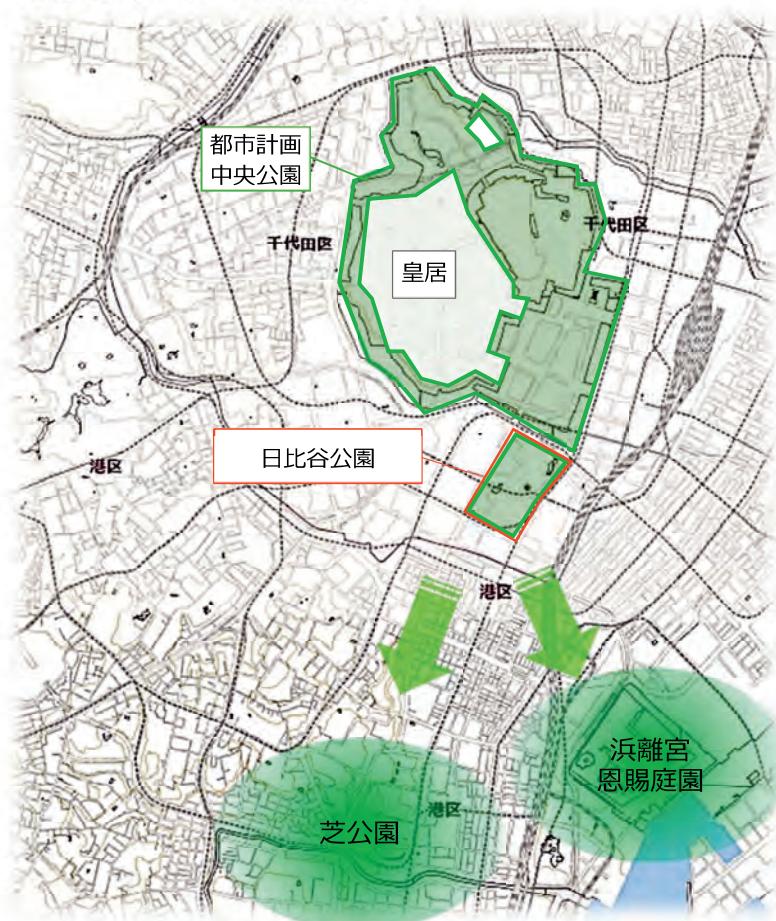
提言IV 緑とオープンスペースのネットワーク形成の核となる公園

i 日比谷公園と皇居周辺の緑が核となって、緑の回廊を形成する。

【主な取組】

- ・まちづくりによる公園に連続した一体的な緑やオープンスペースの創出と連携して、緑のネットワーク形成や回遊性、地域の防災性の向上等を図る。
- ・日比谷公園周辺の緑のネットワークを核に、まちづくりに伴い創出される緑やオープンスペースを連続させ、都立公園等の緑の拠点とつなぐ都市の緑の骨格を形成していく。
- ・日比谷公園を結節点として、皇居に生息する多様な生き物の生息域を周辺に創出された緑へと拡げ、エコロジカルネットワークを形成する。
- ・皇居の生態系とのネットワークに配慮した取組を実践し、その成果を発信する。

■緑のネットワーク形成のイメージ



ii 皇居外苑等との一体感の創出や一元的な情報発信等により、中央公園（セントラルパーク）として一体的な利活用を促進する。

【主な取組】

- ・日比谷見附跡や祝田門付近等で、皇居へのつながりを感じられるビューポイント等を創出する。
 - ・中央公園（セントラルパーク）として、関係者による協議会などを立ち上げ、将来像を共有し、統一サインを設置、公園施設のデザインや色を統一する等により一体感を演出する。
 - ・日比谷公園が皇居外苑等の一元的な情報を発信する等、中央公園（セントラルパーク）のビジターセンター機能を担う。

■参考 一元的な利用の情報発信の例示



◇「緑の散歩道」パンフレット

提言V 多様な主体と連携し、利用者の視点で運営する公園

- i 都民、NPO、企業や周辺のまちと連携しながら、公園全体を維持、運営し公園の魅力向上を図る。

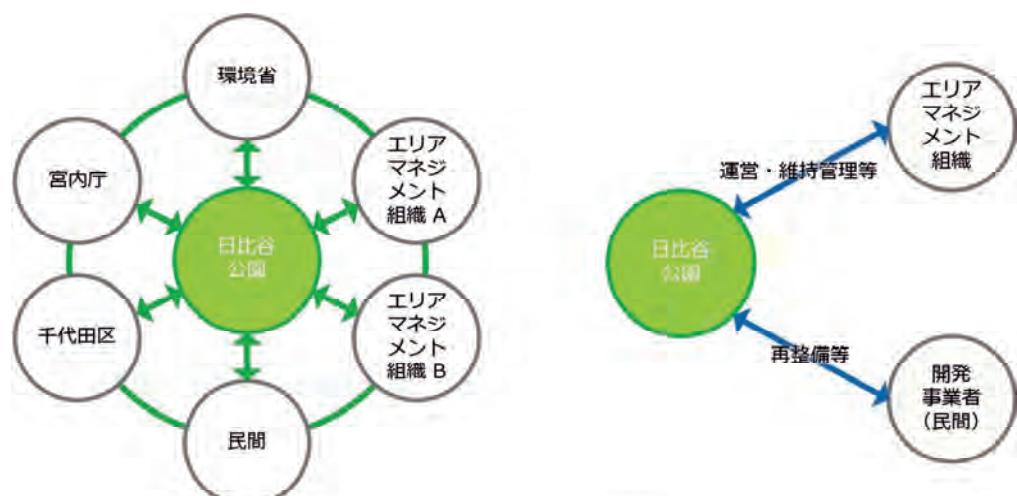
【主な取組】

- ・公園の事業に係る協議会（コミッティ）等を設置し、公園を整備、維持、運営する。
- ・公園施設のあり方を協議し、整備や維持、運営に関する公園独自のルールづくりを進め、効果的に運用する。
- ・多様な手法により都民やNPO、企業等との連携を進め、民間活力の導入を図り、公園の魅力を向上する。

- ii 周辺のまちづくりを担うエリアマネジメント団体等との連携を進め、公園とまちとの一体的な運営を図り地域の魅力の向上を図る。

【主な取組】

- ・イベント等の企画、運営や共通施設利用券の発行、散策ルートの設定など公園とまちが連携し賑わいを創出する。
- ・共通パンフレットや共通 Web サイトの運営、SNS の活用などにより、公園と地域が一体となって情報を発信する。
- ・公園がまちづくりの計画段階から参加することで、開発に際してオープンスペースネットワークやエコロジカルネットワークの形成を実現する。
- ・公園とまちの一体的な運営を担う組織づくりを進める。



◇連携イメージ

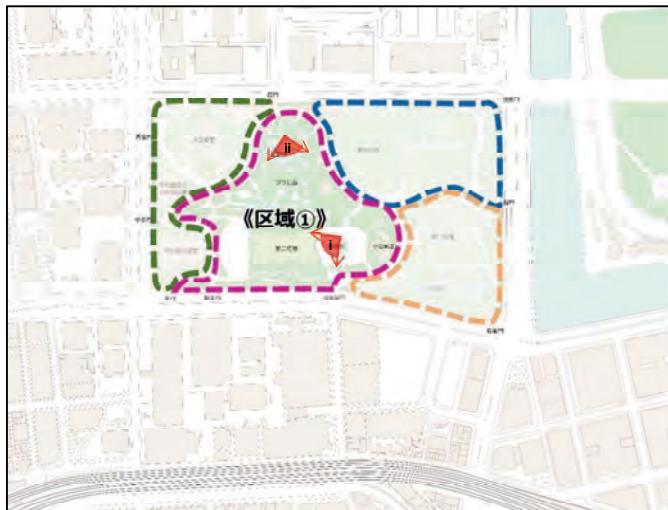
◇運営・維持管理、再整備体制のイメージ

3 区域別の将来像

前項で提示した5つの提言をS字園路で分割される4つの区域に反映させた将来像のイメージを参考として以下に示す。

【区域①】

緑に包まれ誰もが思い思いに過ごし、賑わいの拠点ともなる区域



○日比谷公会堂を中心としたヴィ
スタ景観を継承し、憩いと賑わい
の場となる開放的な空間。

○芸術やエンターテイメントなど
多彩な魅力を先導的に打ち出す空
間。

○歴史的、文化的価値の高い資源
を保全、修復し、公園の顔として
活用する空間。

■広々とした芝生空間の活用

■ビューポイントの創出



■開園当初に整備されたつつじ山の再生
■視点場の確保
■公園の顔となる噴水の保存

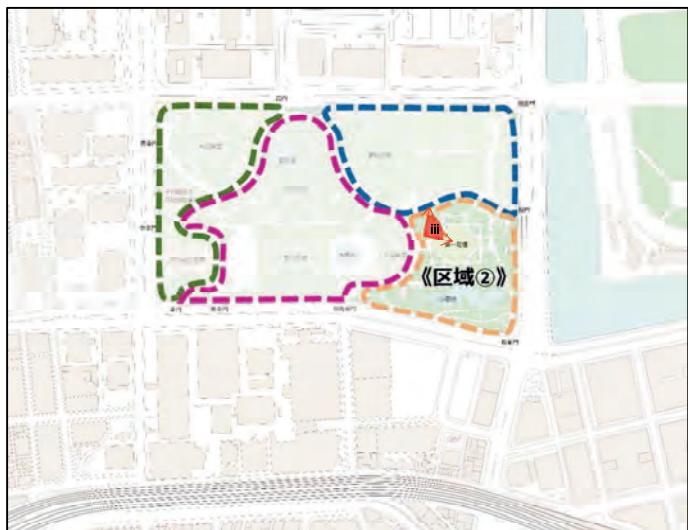


ii 四阿付近から見る雲形池

*歴史的、文化的な施設が
保存、修復され、静かに
心地よく過ごせる空間の
イメージ

【区域②】

江戸・東京の歴史を体感でき、丸の内・有楽町への玄関口となる区域



○近代的洋風公園として風格ある景観で、花と緑に包まれ、誰もが心地よく過ごせる上質な空間。

○江戸の遺構を活用して皇居との一体感を演出し、東京の歴史を体感する空間。

○周辺の街や皇居外苑等からの玄関口として回遊性を高める空間。

iii 第一花壇の様子

*公園の玄関口として、誰をも迎え入れ、花と緑に包まれ心地良く過ごせる空間のイメージ

■広域情報の入手（案内板等）

■見通しの確保

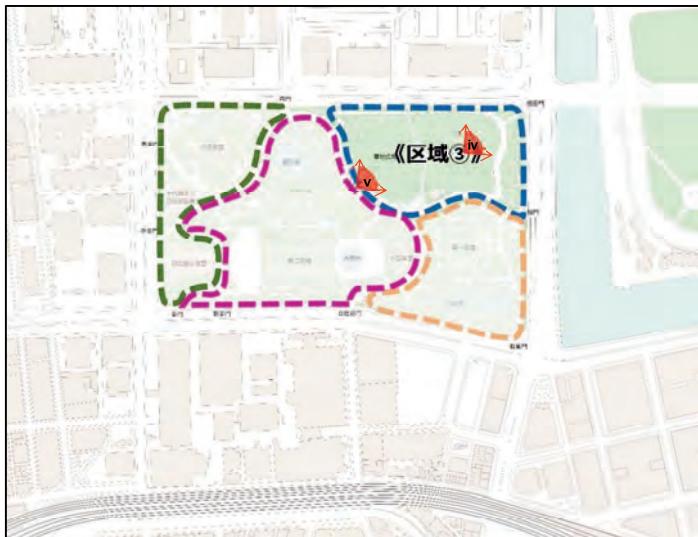
■多様な来園者が思い思いに心地良く過ごせる空間



■多様な人々が草花に触れ、香りを楽しむ事ができる花壇

【区域③】

皇居の緑との一体感が感じられ、多世代が活き活きと活動できる区域



○日比谷公園と皇居周辺の緑が形成するエコロジカルネットワークの結節点となる空間。

○セントラルパークとして皇居外苑等との一体感を創出する空間。

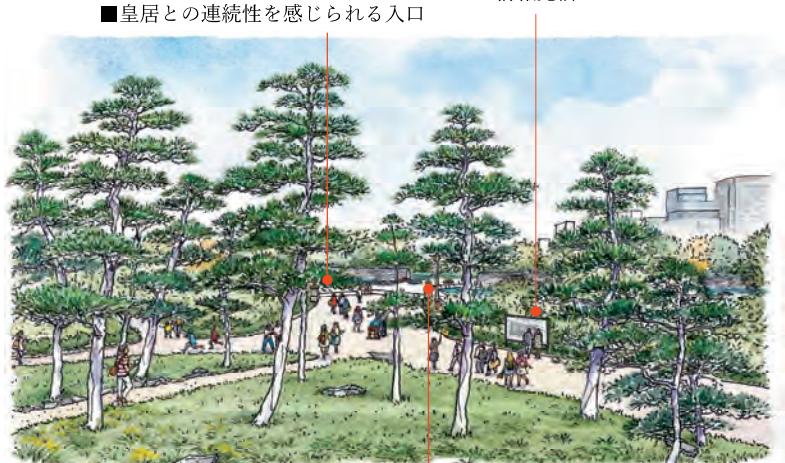
○すべての世代が活き活きと活動したり、憩い、佇むことが出来る空間

■皇居へのつながりや歴史を情報発信

■皇居との連続性を感じられる入口

iv 祝田門付近から皇居を望む

* 皇居周辺の緑との一体感を感じ、セントラルパークの回遊性を高める空間のイメージ



■歴史的構築物の保存 (アーク灯)

■子供からお年寄りまで多世代が佇む空間の創出

■見通しの良い樹林地



■エコロジカルネットワークの結節点となる園地を構成する樹林など

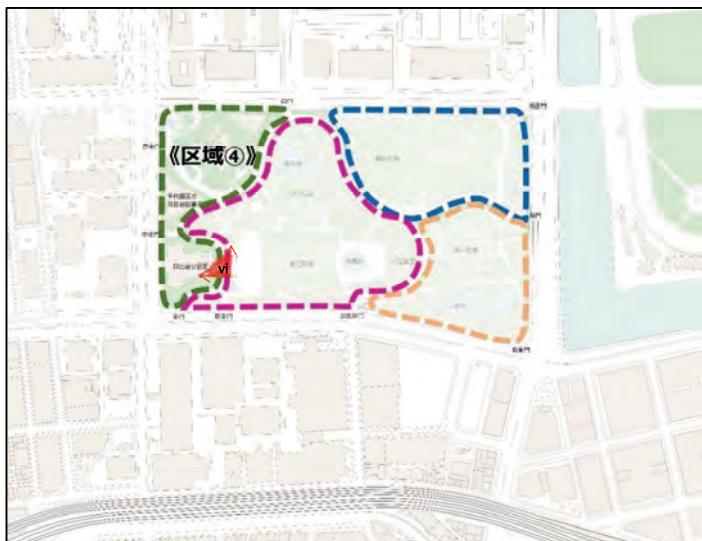
■子供から大人まで、色々な使い方ができる施設

v 草地広場付近

* 誰もが楽しみ生き生きと活動できる空間のイメージ

【区域④】

東京の歴史を学び、緑の中で文化を育み、まちに発信する区域



○公園で育んだ歴史、文化、芸術を世界に向けて発信する空間。

○豊かな緑の中に歴史的建造物がもつ風格と現代建築の魅力が融合する空間。

○官民連携で、まちに開かれた賑わいを創出する空間。

viにれの木広場から見る公会堂

* 風格ある建物をバックに
カフェや音楽で賑わいを
創出する空間のイメージ

■歴史的建造物の保全

■音楽、芸能文化の発信



第3章 将来像の実現に向けて

日比谷公園グランドデザイン委員会としては、日比谷公園の特色と価値を分析評価したうえで、「5つの提言」とこれを実現するための「主な取組」を提案した。

これから東京都として、東京2020大会の意義を十分に踏まえつつ、速やかに「主な取組」に着手され、その将来像の実現を目指されたい。

また、将来像実現に向けた取組に当たっては、着手の優先順位や事業に要する期間を考慮するとともに、以下の点に留意されたい。

① 日比谷公園整備計画の策定

施設整備については、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン思想の実現や上質な公園としての設えに十分に配慮した具体的な姿を示す整備計画を早期に作成し、計画的に整備を進めていくべきである。その際には、公園の運営等に係る関係者が参加する協議会や都民や関係事業者の声をも踏まえつつ合意形成を図ることも不可欠である。

② 進化する日比谷公園の姿の発信

日比谷公園の将来像に対する都民や利用者の理解と支持を得るために、早期に取り組みその実現を図ると同時に、5つの提言が示す公園へと進化していくことを分かりやすく発信することも重要である。

こうした観点から、進化する公園の姿を都民が実感できる参画型イベントなどを実施すると共に、以下の取組については、その進化をしっかりと発信しつつ進められたい。

提言I 「誰もが迎え入れられ、心地よく過ごせる上質な公園」

- ・公園内の段差等のバリアの解消などを速やかに進めるとともに、地元区や関係者との協議、調整を推進し、地下やデッキ等でまちと公園をつなぎ、アクセシビリティ向上に取り組む姿勢を打ち出すべきである。

提言II 「まちと連携し、相乗的に新たな魅力を生み出す公園」

- ・景観のポイントとなる施設のライトアップなどにまちと連携して取り組むほか、大音楽堂（野音）の改築方針の検討を進め、新たな魅力を生み出す大音楽堂の姿を提案し発信すべきである。

提言III 「歴史的、文化的価値を顕在化させた特別な公園」

- ・歴史的、文化的価値のある施設の修復や情報発信などに取り組むとともに、

現在使用停止している日比谷公会堂の改修、活用方針を早急に示すべきである。また、小音楽堂から日比谷公会堂へのヴィスタ景観を大切にする園内景観整序のルールづくりや日比谷公園ならではイベントのあり方を検討し、示していくべきである。

提言IV 「緑とオープンスペースのネットワーク形成の核となる公園」

- ・“東京セントラルパーク”の関係者からなる協議会を設置し、地元千代田区等とも連携し、国内外から訪れる利用者へのガイドラインの統一的整備など目に見える取組を早急に着手すべきである。

提言V 「多様な主体と連携し、利用者の視点で運営する公園」

- ・指定管理者や関係者による協議会を設置し、合意形成や連携を図るとともに、協議会の取組をよりオープンに発信すべきである。

③ “東京セントラルパーク（東京都市計画中央公園）”と他の都立公園への展開

日比谷公園は“東京セントラルパーク”的一角を構成している。セントラルパークの魅力や価値を向上させるためにも、皇居外苑等の管理者と協議会を設置して日比谷公園の取組を共有し、来園者が「東京都市計画中央公園」を一つの公園と感じ、利用できる環境の実現に向けた第一歩を踏み出すべきである。

更に、東京の魅力を一層高めていくためには、都立公園が持つポテンシャルを最大限発揮させ、多様なニーズに対応する必要がある。このため、日比谷公園グランドデザインを範として、各公園の特性、個性を活かしながら、他の都立公園にも展開し、都立公園全体の魅力や価値の向上を図られたい。

添付資料1　日比谷公園グランドデザイン検討委員会名簿（平成30年12月時点）

	氏　名	役　職	専　門
委員長	進士 五十八	福井県立大学学長 東京農業大学名誉教授	造園
副委員長	岸井 隆幸	日本大学理工学部特任教授	都市計画
	アレックス・カー	東洋文化研究者	東洋文化
	宇田 左近	ビジネス・ブレークスルー 大学副学長	経営
	亀山 章	東京農工大学名誉教授	文化財・ 自然生態系
	白洲 信哉	文筆家、プロデューサー	日本文化
	保井 美樹	法政大学現代福祉学部 人間社会研究科教授	エリア マネジメント
	久保田 浩二	東京都都市整備局 都市づくり政策部長	
	花井 徹夫	東京都建設局 総務部企画担当部長	
	日浦 憲造	東京都建設局 公園緑地部長	
	細川 卓巳	東京都建設局 公園計画担当部長	

添付資料2　検討会開催の経緯

第1回検討会（平成29年10月16日）

第2回検討会（平成30年1月29日）

第3回検討会（平成30年3月 9日）

第4回検討会（平成30年12月18日）